

WEEKLY REPORT

国際ロータリー第2600地区 上田ロータリークラブ
(創立1959年11月12日)

2022-2023年度 国際ロータリーテーマ

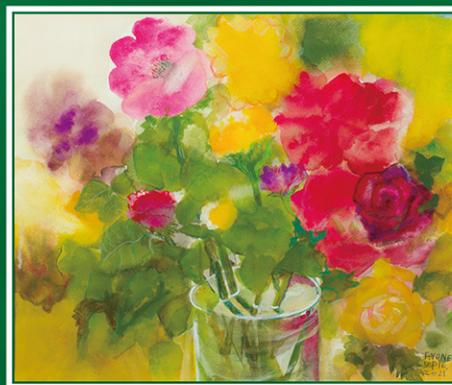
イマジン ロータリー

R.I.会長 ジェニファーE・ジョーンズ

国際ロータリー第2600地区 ガバナー 上沢 広光

2022-23年度 上田ロータリークラブ

- 会長 矢島 康夫 ● 副会長 小幡 晃大・三井 英和
- 幹事 櫻井 雅文 ● 会報委員長 酒巻 弘



Rotary



イマジン
ロータリー

第2878回例会 (令和4年8月22日) 《納涼夜間例会》



ホームページQR

【会長挨拶】

矢島康夫 会長

本日は、新年度初の夜間例会です。

新型コロナウイルスの感染者数は、日本が全世界で一番多いとされていますが、日本を除く先進7か国は、もうすでに感染症と共存して経済を回そうとしています。いずれ日本も追従するものと思います。

さて、クラシックホテルの会のホテルの紹介シリーズ第3弾です。

今回は、神奈川県箱根町にある1878年(明治11年)創業の富士屋ホテルです。

国道1号に面しており、箱根駅伝中継では選手の位置関係を表現する際に使われることもある箱根のランドマーク的な存在です。すでに紹介した万平ホテルと日光金谷ホテルとこの富士屋ホテルは、いろいろ関係が深いホテルです。

日光金谷ホテルの別館の設計者は数々の名設計を残した久米権九郎です。彼は金谷ホテル別館設計の1年後に、軽井沢万平ホテルも設計しています。万平ホテルと金谷ホテル内装の雰囲気が何となく似ていると感じるのもうなずけます。

また金谷ホテルと兄弟の建物と言われる富士屋ホテルの花御殿を設計したのは、金谷ホテル別館を建てた金谷眞一の弟正造です。正造は富士屋ホテルに婿入りし山口正造となり、富士屋ホテルの3代目社

長になった人物です。

日本のクラシックホテルを代表する、「日光金谷ホテル」「富士屋ホテル」「万平ホテル」には、こんな繋がりがあったのです。ぜひ、それぞれのホテルに泊まる時や訪れる時、そんな歴史の一コマを思い浮かべてみてはいかがでしょうか。

宮ノ下の国道1号線から坂を登ったところが玄関です。このホテルも日光金谷ホテルと同様に建物の下を削って下に玄関を作り3階建てになり、2階にフロントがあります。

2018年から2020年の東京オリンピックに間に合うように、2年4か月をかけ大がかりな改修工事と耐震補強工事を施し、竣工当時の面影を損なうことなく最新の設備を備えるようになりました。

建物は、本館、西洋館、花御殿、フォレスト・ウイング、食堂棟、カスケード・ウイングが改修前と同じように迷路のような通路でつながっています。そして国道1号線をはさんで別館旧御用邸「菊華荘」があります。

やはり有名なのは「花御殿」で、花の名前が付けられた全40室はそれぞれにその花にちなんだ趣向が凝らされた部屋になっています。部屋のお風呂はもちろん猫足のバスタブで温泉が出ます。今回の改修でフォレスト・ウイングの最上階に今までなかった大浴場ができました。また、花御殿1階には温水プールもあり、一年中泳ぐことができます(スイミング

キャップが必要ですお忘れなく)。夕食は、地元でとれた山海の旬の食材を生かしたフルコースです。朝食は、コロナ前はメインダイニングの洋食コース、カスケード・ウイングでの洋食バイキングと別邸「菊花荘」の和食のどちらかを選ぶことができました。国道1号線のホテル入口の右手にベーカリー&スイーツ「ピコット」が富士屋ホテル自慢の焼き立てパンを販売しています。箱根を訪れた際には、ちょっと寄って美味しいパンを購入されたら良いと思います。

[幹事報告]

櫻井雅文 幹事

1. 米山奨学会
ハイライトよねやま 269号
2. 地区事務所
2022-23年度R L I Part 1
開催のご案内
ロータリー財団地区セミナー開催のご案内
米山地区セミナー開催のご案内
国際ロータリー第2600地区 青少年保護に関する(新)危機管理計画策定についての暫定措置について
3. 第2600地区ローターアクトクラブ
2022-23年度アフターミーティング日程変更のお知らせ等の書類送付
4. 信州民報 暑中広告
5. 週刊上田新聞社 暑中名刺広告
6. 上田市防衛協会
第30回記念「自衛隊ふれあいコンサートin上田」開催に伴う後援について(ご依頼)
7. 上田市福祉協議会
ボランティア団体一覧表作成へのご協力について御礼
8. 豊かな環境づくり上小地域会議
令和4年度豊かな環境づくり地域活動支援事業の実施について(通知)
9. 「小さな親切」運動
賛助会費納入についてのご願いと令和4年度定期総会開催について
小さな親切 夏号



10. 例会変更

| | | |
|--------|--------|------|
| 長野北東RC | 9月19日 | 定受なし |
| | 26日 | 定受なし |
| | 10月10日 | 定受なし |
| | 24日 | 定受なし |
| | 31日 | 定受あり |

11. 会報恵送

丸子RC、松本西南RC、飯田南RC、東近江RC

12. クラブ計画書 丸子RC

[ニコニコBOX]

宮川 泰 副委員長

飯島幸宏さん 石井懋人さん
石田真人さん 出田行徳さん
伊藤典夫さん 小幡晃大さん
窪田秀徳さん 桑澤俊恵さん
小林浩太郎さん 小林茂秀さん
小山宏幸さん 酒巻弘さん 滋野真さん 関勇治さん
滝沢秀一さん 田中克明さん 田邊利江子さん
布施修一郎さん 増澤延男さん 三井英和さん
宮川泰さん 矢島康夫さん 柳澤日出男さん 横沢泰男さん 米津仁志さん 保科茂久さん



本日喜投額 26名 ￥29,000

累計 ￥317,000

[例会の記録]

司会：小山宏幸 会場・出席委員長

斉唱：ロータリーソング「四つのテスト」

●会長挨拶

●幹事報告



[ラッキー賞]

石井 懋人さん(土屋勝浩さんより、小樽のお菓子)
田邊利江子さん(滋野眞さんより、雪中梅)
土屋 勝浩さん(滋野眞さんより、雪中梅)
酒井 喜雄さん(林秀樹さんより、甲子園のお土産)
石田 眞人さん(林秀樹さんより、甲子園のお土産)



[出席報告]

小山 宏幸 委員長



| | 本日 | 前々回 (8/1) |
|---------------------------|-------|---------------|
| 会 員 数 | 58 | 58 |
| 出 席 ベース | 52 | 54 |
| 出 席 者 数 | 37 | 46 |
| 出 席 免 除 (b) ()内は出席者数 | 7(1) | 7(3) |
| 出 席 免 除 (a) | 0 | 0 |
| メークアップ ()内は Make up 後 | | 0(46) |
| 出 席 率 | 90.38 | コロナ禍の為 100 |

[次回例会予定]

9月5日(月) 慶祝

会員卓話(社会奉仕関連)

(8月29日発行)

【会報担当】 酒巻弘 委員長

納涼夜間例会

●司会

親睦活動・家族委員会 小林浩太郎 副委員長

●会長挨拶

矢島康夫 会長

●乾杯のご発声

石井懋人さん

●中締め

会長エレクト 林 秀樹さん

●手に手つないで

[懇親会 会長挨拶]

矢島康夫 会長

初の夜間例会でございます。コロナがどんどん蔓延してきて、世界で一番感染者が多いと言われておりますが、日本だけ善良にしており、他国では善良をやらずにマスクをせずに経済をまわそうと始まっていると思います。日本もいよいよここまでくると経済を回していかないと



立ち行かなくなっているかなと思いますし、各みなさんが気をつけながら何とかやれる部分はしっかりとやっていきたいなと思っております。

本日、地区大会も実施するというので、パンフレットもお配りしております。ことしのガバナーが沢山のメンバーに集まっていたいただき懇親会も開催したいと望んでおります。私も何とか上山田の地で懇親会も開催できるように望んでおります。

本日はみなさん本当にありがとうございました。

[乾杯のご発声]

石井懋人さん

今まではこういう場面で長老とよばれても実際は諸先輩の方々がいらっしゃいましたが、遂に長老となってしまいました。わたしからはだいぶ離れた方々が大量にいらっしゃいます。図々しいですが我慢してお付き合いください。今日最後の免許書がきました。あと3年経ちますとちょうどいい年となります。それまでは一生懸命



車に乗って皆さんのところへお茶でもいただきに伺いたいなと思っております。4回目のワクチン注射も本日行いました。帰ってきたら仙台育英が優勝と良いことがありました。

それでは、これからも上田ロータリークラブが益々発展することを願い、また皆さんと交流できることを望み、乾杯。

[中締め] 会長エレクト 林 秀樹さん
宴もたけなわではございますが、コロナが怖くて酒が飲めるかという状態で望んでおります。経済活動を行わせていただいております。

皆様、これからもよろしくお願いたします。これからの上田ロータリークラブの益々の発展を願います。一本で締めさせていただきます。

本日はありがとうございました。

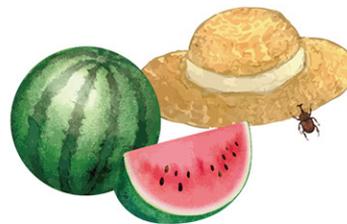
[手に手つないで]



乾杯の様子



中締めの様子



「ロータリーの友」の歴史 創刊まで

1952(昭和27)年4月25日、大阪市で開かれた地区大会では、次年度(1952-53年度)から日本が2つの地区に分割されることが決定していましたが、それまで一つの地区としてまとまっていた日本のロータリアンが2地区に分かれるわけですから、寂しさや期待の入り交じった雰囲気が当時の人たちにはあったようです。そのようなロータリアンの気持ちから、2地区になってからも連絡を緊密にするため、共通の機関誌の創刊が企画されました。

第1回の準備会は大阪で開かれました。大阪ロータリークラブの星野行則氏がガバナーであったこともあり、同クラブの露口四郎氏が幹事役となって開催されました。東京、横浜、京都、大阪、神戸の各クラブ代表者が出席しました。共通の雑誌ということでしたが、東と西では雑誌に対するイメージがかなり違い違っていました。西の星野氏は謄写版刷りの簡単なものでよいから早くという意見でしたし、東では謄写版では手軽すぎて恒久性がない、はじめからある程度きちんとしたものを望むという考えでした。最初の会合では具体案の作成までには至りませんでした。

第2回の準備会が岐阜ロータリークラブの遠藤健三氏の世界で、1952年7月、岐阜・長良川畔の大竹旅館で開かれました。この時は、第1回の準備会よりも具体的になり、議論も沸騰したようです。ここで下記の内容が決定しました。

- ①編集委員は合議制とする。
- ②東京で発行する。
- ③定価50円とするが、広告を取って100円の内容のある雑誌とする。
- ④名称は「ロータリーの友」とする。
- ⑤横書きとする(横書き、縦書きで意見が分かれ、各クラブの意向をうかがうため一般投票を行ったところ、2対1の割合で横書きが採用されることになった)。
- ⑥創刊は1953年1月号とする。



『友』創刊号